



ダーバン会議報告会

カンクン合意の深化 とメカニズム議論の 結果

WWFジャパン

気候変動・エネルギーグループ
リーダー 山岸 尚之

2012年1月10日(火)
文京シビックセンター



カンクン合意の深化 - ダーバン・パッケージの1つ

- 京都議定書第2約束期間の設立
- ダーバン・プラットフォームの設立
- 緑の気候基金(GCF)の設立
- **カンクン合意の実施と深化**

先進国の削減数値目標	
森林吸収源	
メカニズム	AWG KP
対象ガス等	
政策措置の潜在的帰結	

共有ビジョン	
緩和(先進国・途上国)	
REDD	
セクトラル・アプローチ	
メカニズム	
対応措置	
適応	AWG LCA
資金	
技術開発・移転	
キャパシティ・ビルディング	
レビュー	

先進国・途上国のMRV ～ カンクン合意深化の例として

先進国

隔年報告書

国際的な評価・レビュー(IAR)



途上国

隔年更新報告書

国際的な協議・分析(ICA)

- 「目標」に関する共通フォーマットには合意できず
- 隔年報告書は2014年1月1日
- 2013年～2015年のレビューとの連携

- 隔年更新報告書は2014年12月
- ICAが2015年5月から



登録簿



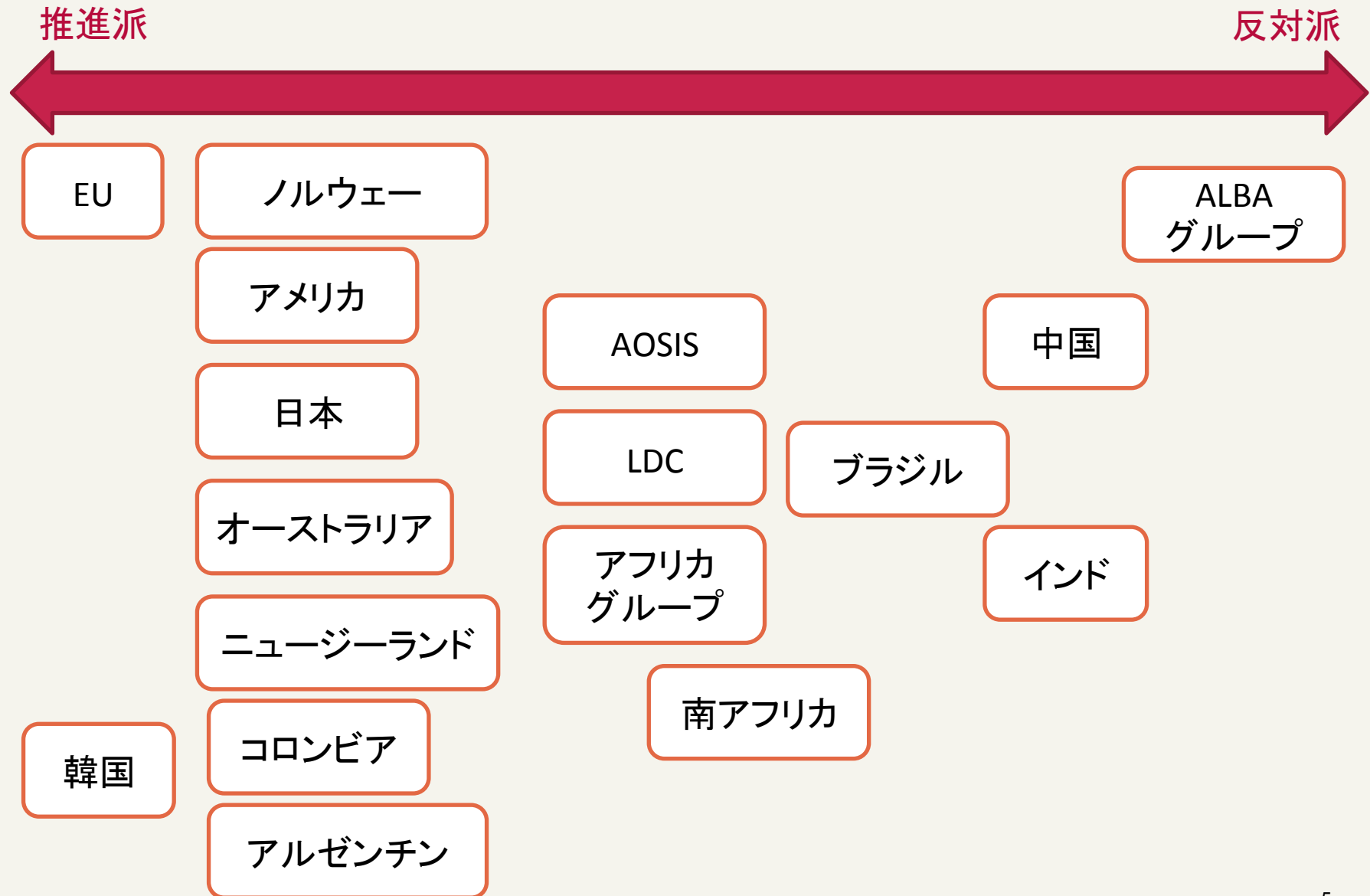
今回の「メカニズム」関連議題

議論の場	議題
CMP	クリーン開発メカニズム(CDM)に関する追加ガイダンス
CMP	共同実施(JI)に関する追加ガイダンス
SBI	CDM理事会の決定に対する異議申し立て(appeals)の際の手続き・仕組み・制度
SBSTA	二酸化炭素回収および地中貯留(CCS)に関するCDMプロジェクト活動
SBSTA	HCFC-22の新規施設からのHFC-23排出量削減からCDMクレジットを得ることの影響
SBSTA	枯渇した森林(forest in exhaustion)の再植林をCDMプロジェクト活動に含めることの影響
SBSTA	CDMの下でのマテリアリティ基準
AWG KP	スピンオフグループ1: 余剰AAU スピンオフグループ3: メカニズム関連議論
AWG LCA	非公式会合: 多様なアプローチ(various approaches)

- 第2約束期間非参加国はCDMを利用できるのか？
- 新しい市場メカニズムを設立するのか？
- 独自メカニズム提案の「フレームワーク」を設立するのか？



新しい市場メカニズムに関する各国の立場





3つの論点に関する結果

- 第2約束期間非参加国はCDMを利用できるのか？
 - 結論は得られず
- 新しい市場メカニズムを設立するのか？
 - 「設立する」→「定義する」という表現に
 - 事実上、紙の上では設立。詳細ルールは今後
- 独自メカニズム提案の「フレームワーク」を設立するのか？
 - 「フレームワーク」を検討する作業計画
 - どこまで国連が定める基準が適用されるか曖昧に



これからの一年の課題

- 2013年以降、多種多様なメカニズムが乱立する可能性
 - ✓ 国連による整合性や環境十全性の確保
 - ✓ フレームワークにおける共通原則・ルールの策定が必要
- 今回の合意に含まれた「基準」の具体化
 - ✓ 「努力の二重カウントの回避」
 - ✓ 「GHGのネットでの減少および／もしくは回避の達成」



ご静聴ありがとうございました